

I. データヘルス計画について

「データヘルス計画」とは

レセプト・健診情報等のデータの分析に基づく 効率的・効果的な保健事業をPDCAサイクルで実施するための事業計画

「データヘルス計画」の特徴 ～被用者保険者の持つ強みや特性を踏まえた展開～

1. レセプト・特定健診データの活用による

- ① 組合や事業所における全体的な健康状況・受診状況・医療費状況の把握
- ② 保健事業の効果が高い対象者の抽出

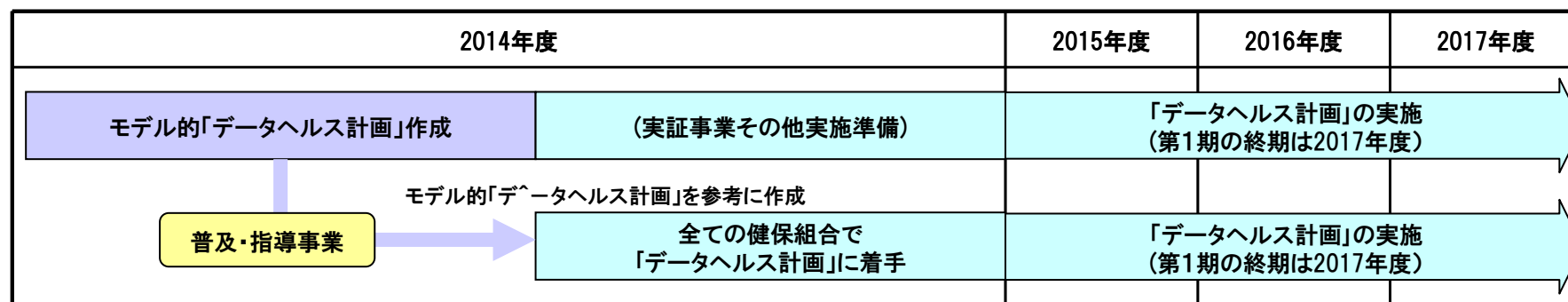
2. 身の丈に応じた事業範囲

- ① 加入者に対する全般的・個別的な情報提供
- ② 重症化予防

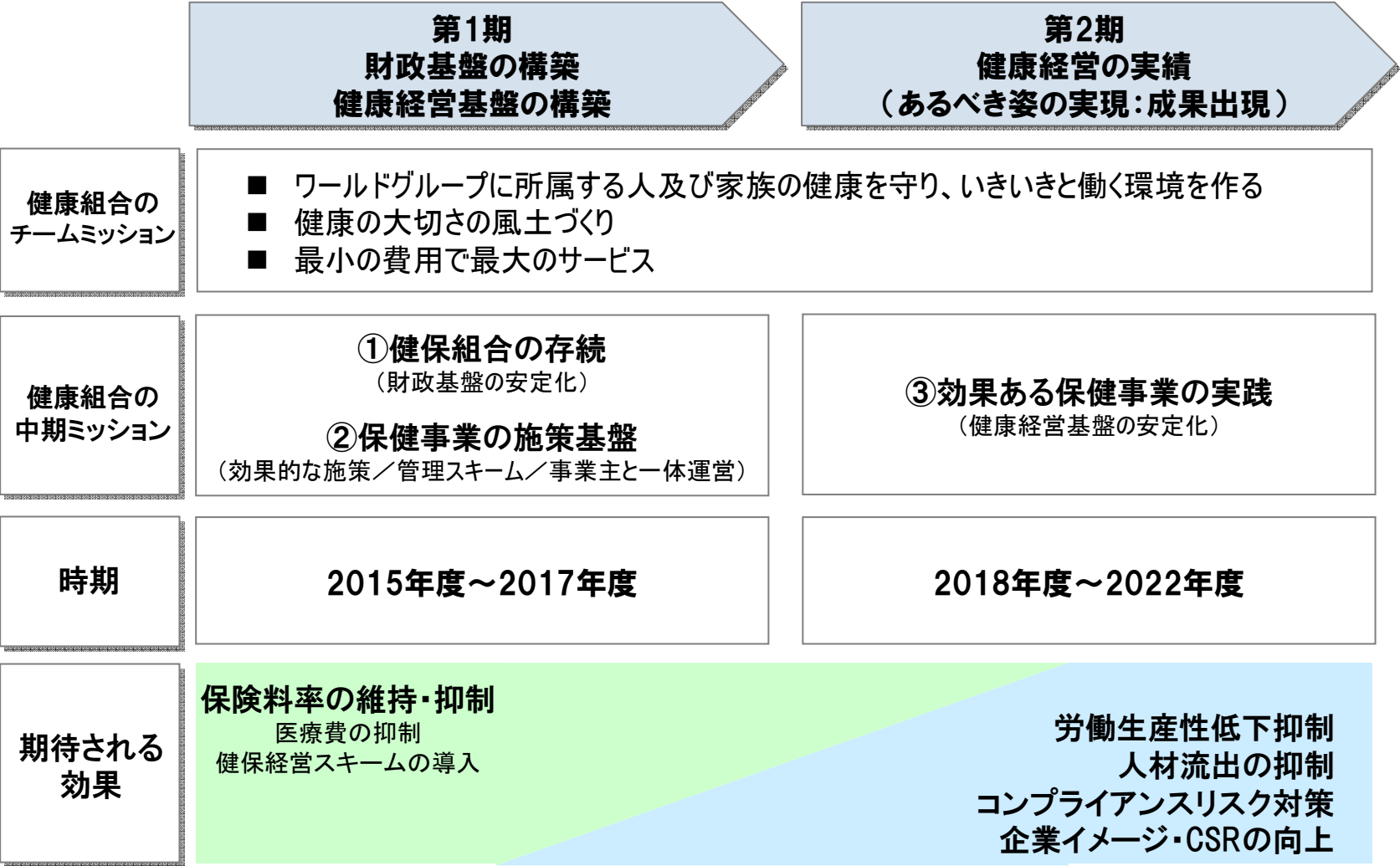
3. コラボヘルス（事業主との協働）

4. 外部専門事業者の活用

実施スケジュール

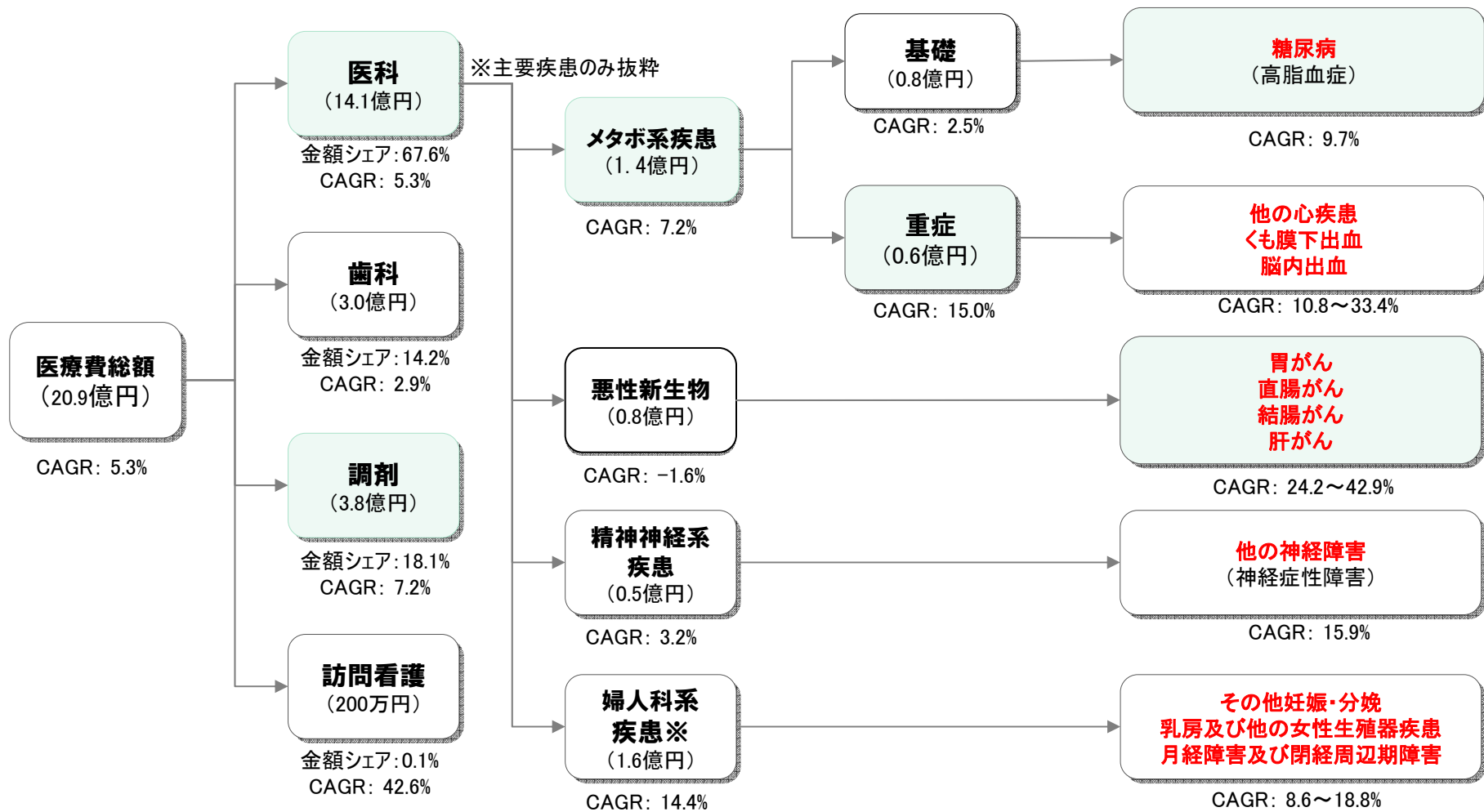


II. ワールド健康保険組合のビジョン



加入者数が横ばいの中、医療費総額は増加傾向にある。
当健保は、主要3疾患に加え、婦人科系疾患が多いのが特徴である。

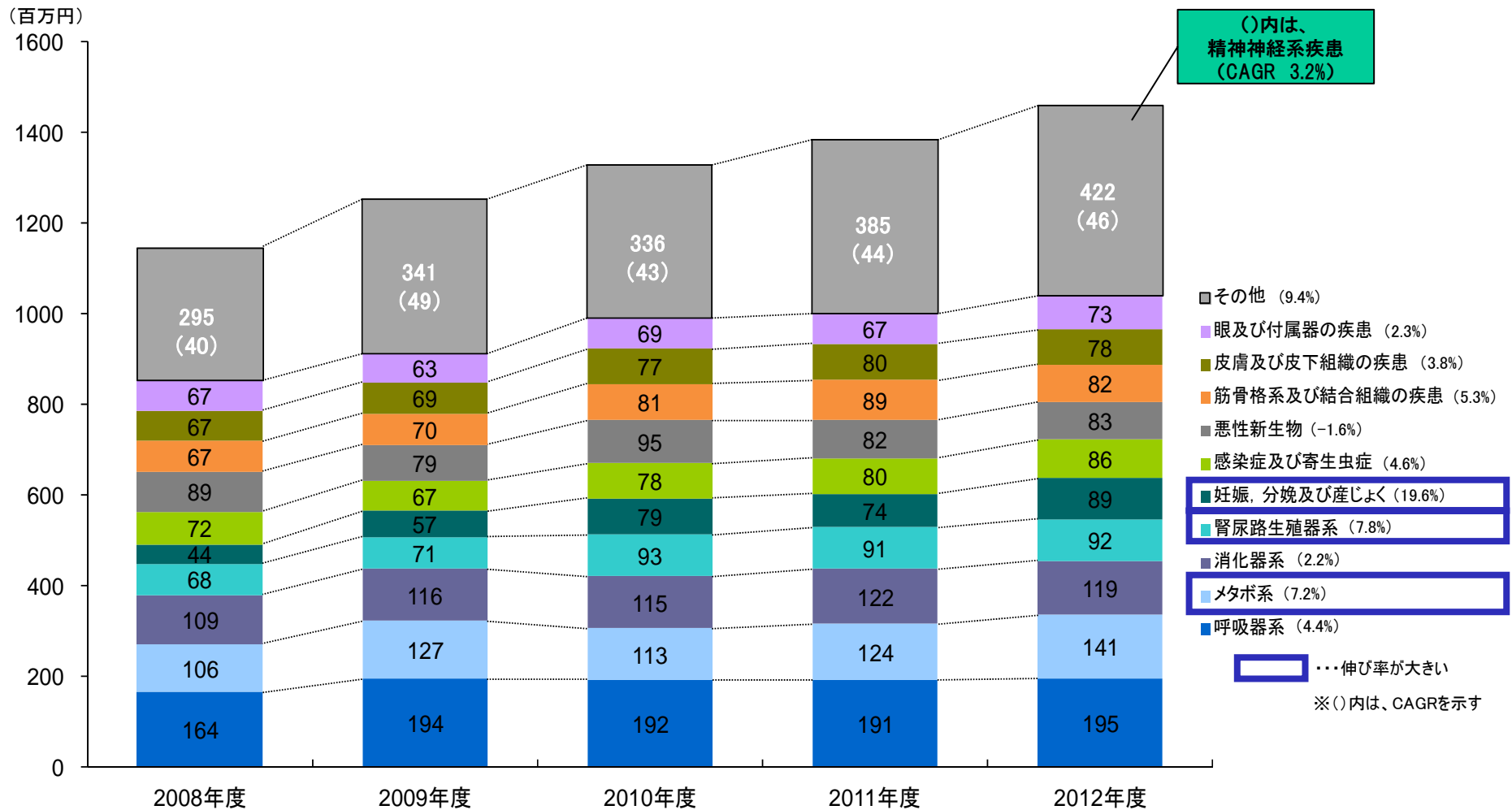
医療費の全体像と傾向



※婦人科系とは、「妊娠、分娩及び産じょく」に加え、「腎尿路生殖器」の中の「乳房及び他の女性生殖器疾患」「月経障害及び閉経周辺期障害」を加えたものとする。

119分類別の推移をみると、妊娠、分娩及び産じょくの増加が顕著(年平均19.6%増)。次いで、腎尿路生殖器系とメタボ系の増加幅が大きい。

医科医療費の主要疾患別推移 (医療費上位10疾患)



2012年度までの医療費分析では、ベンチマーク比や増加率の高さから、精神神経系と婦人科系の取組優先度が高いという結果になった。

分類		傾向・特徴	取組優先度案
医科医療費	メタボ系疾患 基礎	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 基礎全体だと、横ばいの推移である。(他健保と比べると低水準) ✓ 糖尿病が、年率9.7%で増加傾向で有り、注意する必要がある。 ✓ 直近4年間で、全体的に緩やかに増加傾向にあるのも留意する点である。 	3
	メタボ系疾患 重症	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 重症全体では、年率15%での増加傾向にある。(他健保と比べると低水準) ✓ 特に、心疾患、脳血管疾患の増加が顕著である。 ✓ 毎年、心疾患で亡くなる方が1~2名いる。 	2
	悪性新生物	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体で見ると、横ばいで推移している。 ✓ 疾病別で見ると、胃、結腸、直腸、肝臓の医療費が増加している。 ✓ 死亡者を見ると、上記がんに留まらず、多様ながんが死因となっている。 ✓ ベンチマークと比較すると、罹患率はほぼ同じ。(子宮がんのみ高値) 	3
	精神神経系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体的に、医療費も患者数も増加傾向にある。 ✓ 傷病手当は2010年をピークに減少傾向にある。 	1
	婦人科系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 医療費はメタボ系疾患と同等(1.6億円)で、増加率はメタボの倍(14%)である。 ✓ 傷病手当も増加傾向である(出産関連が多い)。 	1
	調剤費	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ベンチマークと比較して、若干ではあるが医療費に占める調剤費比率が高い。 ✓ 年間調剤費上位者は、他健保と比べて、低水準であるが、メタボ系疾患患者が多いためジェネリックに転換しやすい可能性が高い。 	4

最重点

当健保は、これまでもにも主要な課題に対して網羅的な取り組みを行い、成果を上げている。今後も、とくに精神神経系、婦人科系、前期高齢者について、優先的に実行していく。

分類		健保における優先度	これまでの取り組み	成果	
医科医療費	精神神経系疾患	1	<ul style="list-style-type: none"> ✓電話相談(本人無料)・面接相談(補助有)(外部委託<面接相談:年5回まで補助有り、6回目以降全額自己負担>) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓利用者数→電話相談 延べ159人、メール相談 延べ12人、面談相談 延べ10人 	
	婦人科系疾患	1	<ul style="list-style-type: none"> ✓妊娠の啓発活動(マタニティセルフケアBOOK配布) ✓保健師による個別体調確認の実施(重度貧血者・妊娠中不調者等) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓マタニティセルフケアBOOK配布 約500人/年 ✓保健師体調確認:重度貧血者 10人/年、妊娠不調休業者 30人/年 	
	前期高齢者	1	<ul style="list-style-type: none"> ✓保健事業(訪問事業/健康啓発冊子配布) ✓個別健康支援(レシピ確認/健康度別継続フォロー) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓全体の年間医療費減少(2012年度比の2013年度医療費:88.4%) 	
	メタボ系疾患	重症	2	<ul style="list-style-type: none"> ✓ハイリスク者の疾病管理(レシピによる定期受診・治療状況の確認) ✓保健指導(面談含む)、面談不能者への文書指導 ✓定期受診者への継続支援(遠隔地) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓面談者の結果 <ul style="list-style-type: none"> ・データ改善、又はコントロール良好(23.5%) ・データ変動無、又は自己管理実施(61.8%) ・治療不十分、未治療、自己管理無(14.7%)
		基礎	3	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者・被扶養者に対する特定健診・特定保健指導の実施(健保保健師・委託業者が担当) ✓禁煙キャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓特定健診・特定保健指導ともに受診率・実施率が参酌標準を達成 ✓メタボ改善率も11.8%と参酌標準を上回った
	悪性新生物	3	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者検診(がん検診:胃がん/大腸がん/乳がん/子宮がん) ✓配偶者健診(基本健診・がん検診) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者における受診率(胃68.9%、大腸73.5%、乳69.4%、子宮61.3%) ✓有所見者における措置率(胃75.1%、大腸61.3%、乳72.2%、子宮78.0%) 	
	調剤費	4	<ul style="list-style-type: none"> ✓ジェネリック変更通知書の通知(年4回) ✓HPに切替効果がわかるHPリンクを貼る 	<ul style="list-style-type: none"> ✓全体のジェネリック使用率が改善(通知前20.8%→通知後23.6%) ✓通知者12%において医療費削減効果があった 	

成果をとりまとめ、今後の課題を定める。
 精神神経系、婦人科系、メタボ系重症については、施策の強化が必要である。

分類	成果	今後の課題	今後の取組方針
最重点 医科医療費	精神神経系疾患 ✓利用者数→電話相談 延べ159人、メール相談 延べ12人、面談相談 延べ10人	✓事業主とのワークする余地が大きい ✓原因別対策の具体化 ✓休職だけでなく、退職者も多そう	強化 (事業主と)
	婦人科系疾患 ✓マタニティセルフケアBOOK配布 約500人/年 ✓保健師体調確認: 重度貧血者 10人/年、妊娠不調休業 30人/年	✓事業主とのワークする余地が大きい ✓妊産婦の労働環境の改善余地あり ✓妊娠に関するセルフケアとラインケアの充実	強化 (事業主と)
	前期高齢者 ✓全体の年間医療費減少 (2012年度比の2013年度医療費: 88.4%)	✓現状維持で進めたいが63~64歳に、高額医療者もいるので数年後の高騰リスクあり	現状維持
	メタボ系疾患 重症 ✓面談者の結果 ・データ改善、又はコントロール良好 (23.5%) ・データ変動無、又は自己管理実施 (61.8%) ・治療不十分、未治療、自己管理無 (14.7%)	✓母体企業以外への対策が未実施	強化
	基礎 ✓特定健診・特定保健指導ともに受診率・実施率が参酌標準を達成 ✓メタボ改善率も11.8%と参酌標準を上回った	✓今後、加入者の高齢化に伴い、対象者が増加する見込みであり、対応できる体制整備が課題 ✓指導実施者の中期的な効果の継続性が検証できていない	現状維持
	悪性新生物 ✓被保険者における受診率 (胃68.9%、大腸73.5%、乳69.4%、子宮61.3%) ✓有所見者における措置率 (胃75.1%、大腸61.3%、乳72.2%、子宮78.0%)	✓将来的には、全てのがん検診受診率を80%にしたい ✓有所見者の事後措置率が低い	現状維持
	調剤費 ✓全体のジェネリック使用率が改善 (通知前20.8%→通知後23.6%) ✓通知者12%において医療費削減効果があった	✓着実に成果出現しているが、一層の成果出現可能性はありそう (使用率50%に向けて)	強化可能性探索

今後は、健保組合単体では、メタボ重症化予防策を優先的に強化し、事業主と共同では、精神神経系と婦人科系の対策を強化していく。

分類		健保における 優先度	今後の 取組方針	成果指標	今後の施策	
最重点 医科医療費	精神神経系疾患	1	強化 (事業主と)	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数 ✓傷病手当金(支給人数/日数) ✓退職者数、埋葬者数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ラインケア、セルフケアの両面から施策を検討 ✓原因別の対策の具体化 	
	婦人科系疾患	1	強化 (事業主と)	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数 ✓傷病手当金支給者数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓店舗勤務の女性を中心に「目指せ！I am 健康ガール」を実施 ✓個別体調管理の継続 	
	前期高齢者	1	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ✓全体の年間医療費減少 	<ul style="list-style-type: none"> ✓保健事業(訪問事業/健康啓発冊子配布) ✓個別健康支援(レセプト確認/健康度別継続フォロー/ジェネリック通知) 	
	メタボ系疾患	重症	2	強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数 ✓施策効果(参加率/体組成変化/活動変化/意識変化) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓教育入院、健康教室などのリスクアローチによる重症化予防を実施(予定)
		基礎	3	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数 ✓施策効果(参加率/体組成変化/活動変化/意識変化) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者・被扶養者への特定健診・特定保健指導(健保保健師・委託業者が担当) ✓禁煙キャンペーン
	悪性新生物	3	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数、死亡者数 ✓施策効果(健診受診率/有所見者の事後措置率) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者検診(がん検診:胃がん/大腸がん/乳がん/子宮がん) ✓配偶者健診(基本健診・がん検診) 	
	調剤費	4	強化可能性 探索	<ul style="list-style-type: none"> ✓ジェネリック利用率 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ジェネリック変更通知書の通知(年4回) ✓さらなる強化施策の検討 	

全ての課題に対して、2014年度から何らかの取り組みを始める。
2017年度に向けて徐々に範囲を拡大し、効果を高めていく。

...準備
 ...削減に寄与

分類		健保における優先度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
医科医療費	精神神経系疾患	1	マニュアル等整備	ラインケア教育	ラインケア・セルフケア対策の充実			
			原因別対策の具体化	傷病手当の削減				
	婦人科系疾患	1	「目指せ! I am 健康ガール」	拡大・実施検討	個別体調確認			
	前期高齢者	1	健康相談支援	施策評価	健康寿命延伸支援			
	メタボ系疾患	重症	2	新規重症化発症予防		重症化再発予防		
		基礎	3	被扶養者特定健診受診促進	ポピュレーションアプローチによる健康インフラ構築			
			特定保健指導の見直し(業者管理を中心に)					
	悪性新生物	3	がん検診強化(受診率UP・事後措置率UP)			原因探索	施策推進	
	調剤費	4	ジェネリック促進					

IV. コラボヘルス__事業主(人事部労務課)との連携

本事業の実行には、健保と事業所が一体となって「コラボヘルス」を実現。
常に進捗を共有できるよう、綿密な情報交換を行うような仕組みづくりを行う。

コラボヘルスの必要性

＜これまでの取り組み＞

- これまでの、健康と安全に関して、意図的に健保組合と事業所の業務を切り離すことで、双方がしっかりと相互の役割を認識し業務を遂行することができるようになってきた。
- その一方で、関係部署どうしでの定例会を開催し、お互いの業務についての綿密な情報交換を試みている。その一定の成果からコラボヘルスの、より一層の重要性を認識し始めている。

＜とくにコラボを必要とする事項＞

- 事業所ごとに課題が異なることから、それぞれの現状をリアルタイムで把握するという入力面での困難さがあった。
- また、店舗系の社員を多く有する当グループにおいては、広く多くの社員に介入(アウトプット)を行うためには健保のみでは限界があった。

今後の取り組み

＜インプットでのコラボ＞

- 健保組合が持つ情報と事業主が持つ情報を集約し、事業所ごとの優先課題を抽出し、事業主に説明と情報提供を行う。
- 健保組合と労務課は、事業主の課題解決に向けて情報提供と支援を行う。
- 事業主は年度末に、1年間の取組みについて健康管理事業推進委員会(中央安全衛生委員会)で発表し、全体共有を図る。

＜アウトプットでのコラボ＞

- 課題は事業所毎に優先順位をつけ、事業主が主体となってアクションプランを作成し、改善に取り組む。
- 健保組合と労務課は、課題解決の進捗状況を把握・管理し、必要な打ち手の提案と支援を行う。

コラボヘルスの運営スキーム

